

2023年3月期第2四半期決算説明

2022年11月

 日本カーバイド工業株式会社



2023年3月期第2四半期決算の概要



サマリー【連結損益計算書】

- PC、通信関連向け製品の出荷が市況の悪化により低調に推移
- 世界的な半導体不足による自動車の減産の影響はあるものの、東南アジアでの二輪車向け製品の出荷が好調に推移
- 原材料価格の高騰が損益に影響
- 以上の結果、前年同期比**増収減益**

単位：百万円

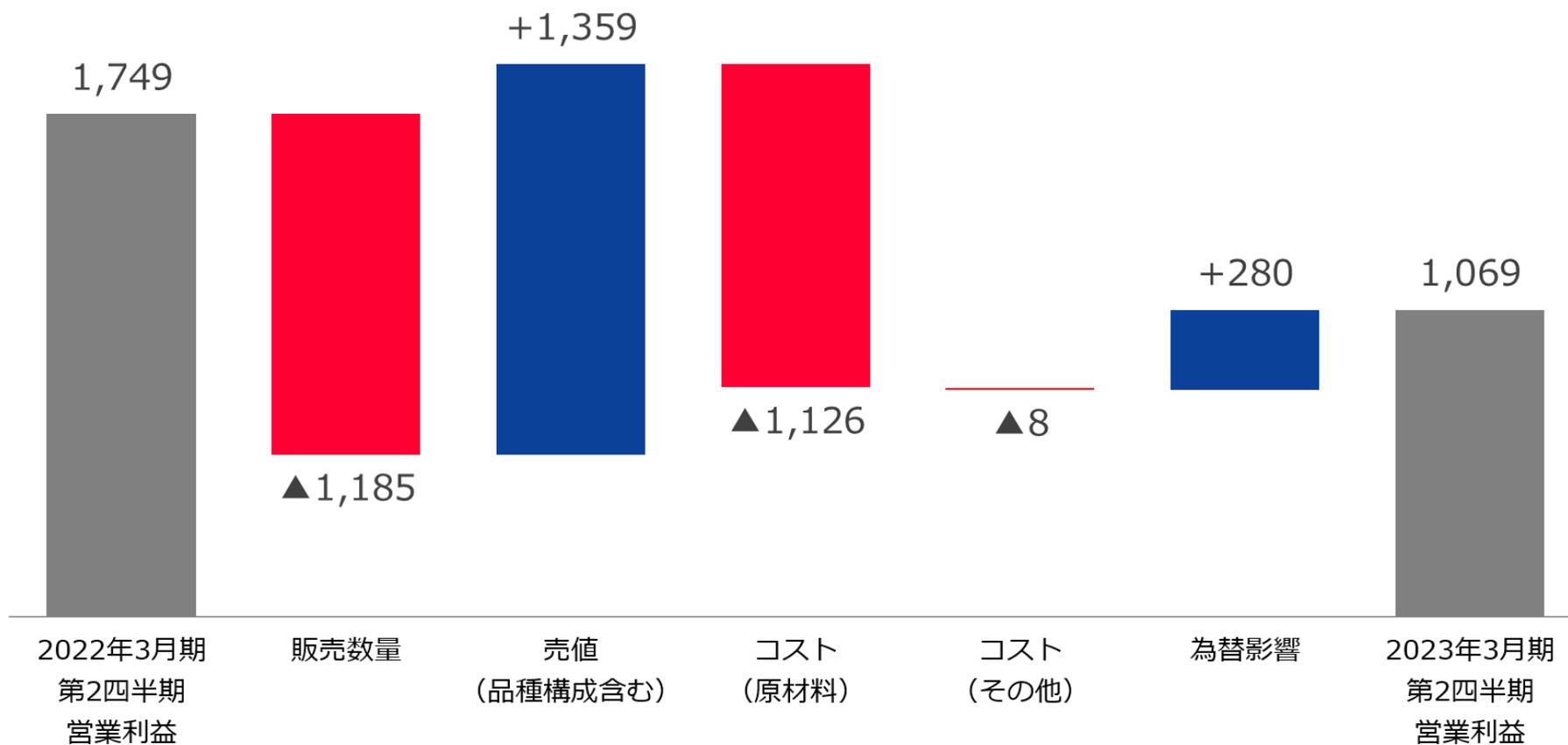
	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	23,059	23,313	253	+1.1%
営業利益	1,749	1,069	▲ 680	▲ 38.9%
営業利益率	7.6%	4.6%	—	▲ 3.0ポイント
経常利益	1,934	1,740	▲ 194	▲ 10.0%
四半期純利益	1,136	1,367	231	+20.3%

営業利益増減要因分析



前年同期比 680百万円**減益**

単位：百万円



セグメント別業績



単位：百万円

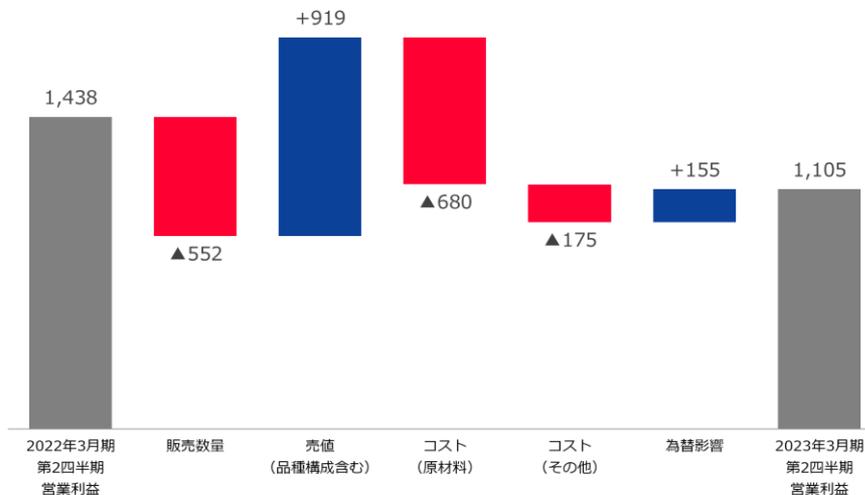
		2022年3月期第2四半期	2023年3月期第2四半期	前年同期比	
		実績	実績	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	10,098	9,849	▲ 248	▲2.5%
	営業利益	1,438	1,105	▲ 332	▲23.1%
フィルム・シート製品	売上高	7,952	8,852	900	+11.3%
	営業利益	525	292	▲ 232	▲44.4%
建材関連	売上高	3,730	3,884	154	+4.1%
	営業利益	150	41	▲ 108	▲72.7%
エンジニアリング	売上高	2,082	1,646	▲ 435	▲20.9%
	営業利益	25	▲ 104	▲ 129	-
連結調整	売上高	▲ 805	▲ 920	-	-
	営業利益	▲ 389	▲ 263	-	-
連結合計	売上高	23,059	23,313	253	+1.1%
	営業利益	1,749	1,069	▲ 680	▲38.9%

セグメント別状況 電子・機能製品事業



単位：百万円

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	10,098	9,849	▲ 248	▲2.5%
機能化学品	2,016	1,858	▲ 158	▲7.8%
機能樹脂	4,880	4,214	▲ 666	▲13.6%
電子素材	3,200	3,777	577	+18.0%
営業利益	1,438	1,105	▲ 332	▲23.1%



機能化学品 減収減益

- + 半導体市場は悪化傾向にあるものの、半導体フォトレジスト用添加剤や電子部品製造用化学品の出荷は堅調に推移
- 医農薬中間体や医薬品原薬の出荷が減少

機能樹脂 減収減益

- 液晶パネルの減産影響により、光学関連分野向け粘・接着剤の出荷が減少
- ナフサ価格の高騰により、原材料コストが上昇

電子素材 増収増益

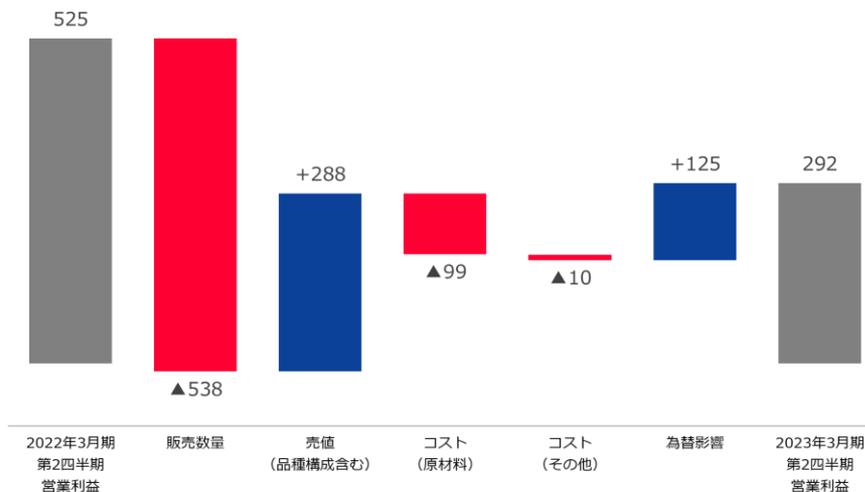
- + カーエレクトロニクス向けセラミック基板の出荷が増加
- + 半導体用金型クリーニング材の出荷が増加

セグメント別状況 フィルム・シート製品事業



単位：百万円

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	7,952	8,852	900	+11.3%
フィルム	810	776	▲ 34	▲4.2%
ステッカー	2,691	3,229	538	+20.0%
再帰反射シート	4,450	4,846	396	+8.9%
営業利益	525	292	▲ 232	▲44.4%



フィルム 減収減益

- 国内需要の回復が遅れ、自動車向けや看板向けの出荷が減少

ステッカー 増収増益

- + コロナ禍からの回復基調に伴い、東南アジアでの二輪車や自動車向けの出荷が増加
- + 為替による損益へのプラス影響

再帰反射シート 増収減益

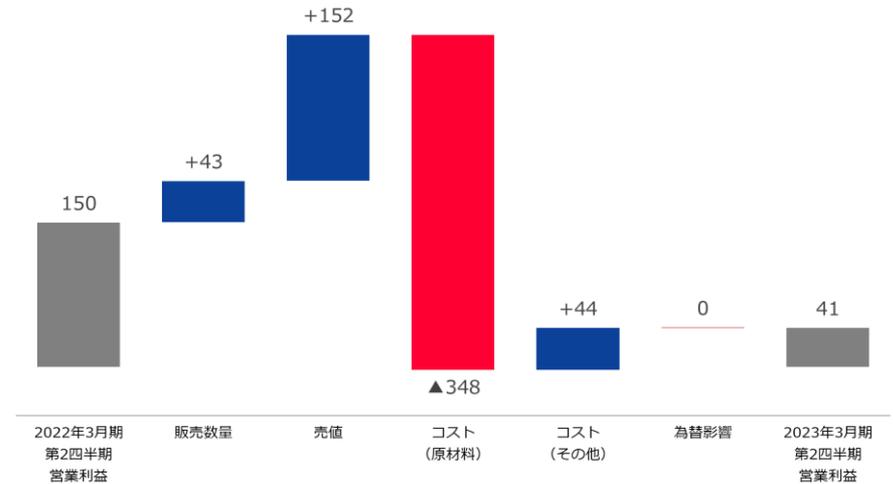
- 欧米でのインフレ、中国の新型コロナウイルス対策による景気後退や物流の混乱が長期化した影響により、ナンバープレート向けの出荷が減少
- + 為替による損益へのプラス影響



セグメント別状況 建材関連事業

単位：百万円

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	3,730	3,884	154	+4.1%
営業利益	150	41	▲ 108	▲ 72.7%



増収減益

- + コロナ禍の影響で建設作業員の確保が難しくなっていた状況が改善され、工事が進展したことで、ビル用アルミ建材の売上が増加
- アルミ地金価格の高騰により、原材料コストが上昇



単位：百万円

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	2,082	1,646	▲ 435	▲20.9%
営業利益	25	▲ 104	▲ 129	-

減収減益

- 資材や燃料価格高騰により設備投資に対する待ちの姿勢が強まり、国内向け工事案件の完工が減少
- + 製造コストの低減と販売費用および一般管理費の抑制

【サマリー】 連結貸借対照表



自己資本比率は 50.9%、前連結会計年度末から3.9ポイント改善

単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期第2四半期連結会計期間	前期末比
現金及び預金	11,376	11,723	347
売上債権	14,773	13,583	▲ 1,190
棚卸資産	9,173	10,855	1,682
有形固定資産・無形固定資産	25,596	26,628	1,032
その他	3,627	3,297	▲ 330
資産合計	64,546	66,088	1,542
有利子負債	13,970	12,454	▲ 1,516
仕入債務	7,464	7,382	▲ 82
その他	11,062	10,769	▲ 293
負債の部	32,496	30,606	▲ 1,890
株主資本	23,546	24,649	1,103
その他の包括利益累計額	6,772	8,973	2,200
非支配株主持分	1,731	1,859	128
純資産の部	32,049	35,482	3,432
負債及び資本合計	64,546	66,088	1,542
D/Eレシオ	0.48	0.38	▲ 0.10
自己資本	30,318	33,623	3,305
自己資本比率	47.0%	50.9%	3.9ポイント

連結キャッシュフロー計算書



フリーキャッシュフローは912百万円（前年同期比70百万円減少）

単位：百万円

	2021年3月期第2四半期	2022年3月期第2四半期	前年同期比
税金等調整前当期純利益	1,648	1,659	11
減価償却費	1,005	1,013	8
運転収支	▲ 2	331	333
その他	▲ 842	▲ 551	291
営業活動によるキャッシュフロー	1,807	2,453	645
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 825	▲ 1,540	▲ 715
フリーキャッシュフロー	982	912	▲ 70
有利子負債の増減額	2,687	▲ 1,516	▲ 4,203
配当金の支払額	▲ 351	▲ 281	70
新株予約権の行使による株式の発行	477	-	▲ 477
その他	▲ 89	▲ 89	▲ 0
財務活動によるキャッシュフロー	2,724	▲ 1,887	▲ 4,611
現金及び現金同等物に係る換算差額	392	1,122	730
現金及び現金同等物の増減額	4,099	147	▲ 3,952
現金及び現金同等物の期末残高	16,501	10,986	▲ 5,515



設備投資・減価償却・研究開発

中期経営計画「NCIキラリ2025」がスタートし、設備投資額は前年同期比362百万円増加

単位：百万円

設備投資額	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比
設備投資額	1,259	1,621	362
電子・機能製品	697	534	▲ 163
フィルム・シート製品	444	1,006	562
建材関連	25	24	▲ 1
エンジニアリング	79	10	▲ 69
共通・調整	12	45	33
減価償却費	1,005	1,013	8
研究開発費	1,053	1,048	▲ 5

2023年3月期 主な設備投資案件

- 厚膜印刷基板の生産能力増強
- 再帰反射シートと次世代機能性フィルム_の設備増強
- セラミック基板の生産能力増強

※設備投資額は、設備等が検収された時点
を以て資産計上された金額。投資活動による
キャッシュフローの有形固定資産の取得
による支出は検収された設備等の資金が実
際に支払われた時点での金額となり、差異
が生じる



2023年3月期決算の通期業績予想

2023年3月期 連結業績予想



11月8日に業績予想を修正
売上高は前期並み、営業利益は減益を予想

単位：百万円

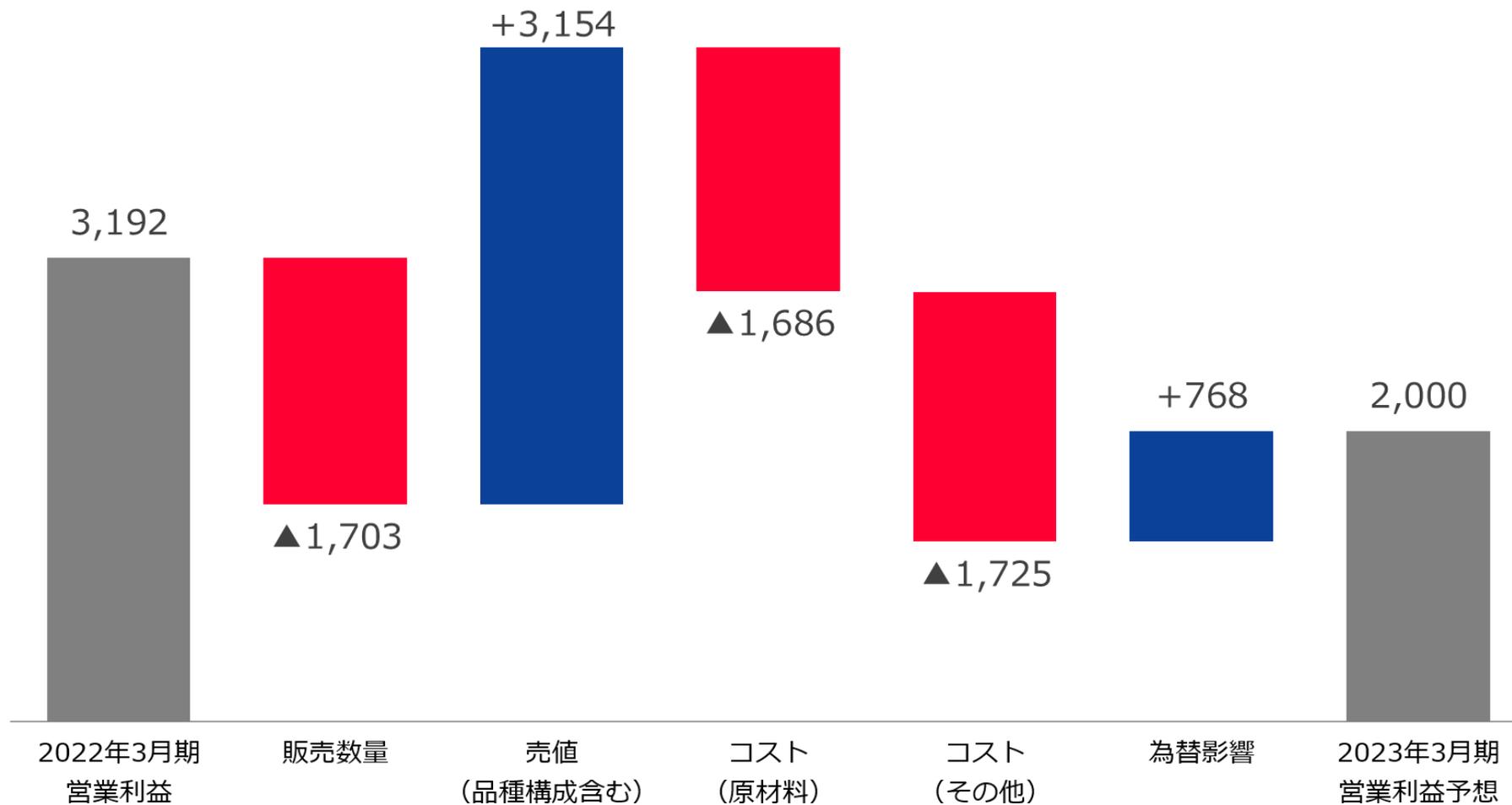
	2022年3月期		2023年3月期		2023年3月期		前期比	
	実績	利益率	8/5発表業績予想	利益率	現時点業績予想	利益率	増減額	増減率
売上高	47,003	-	48,500	—	47,000	—	▲ 3	▲0.0%
営業利益	3,192	6.8%	2,800	5.8%	2,000	4.3%	▲ 1,192	▲37.4%
経常利益	4,055	8.6%	3,400	7.0%	2,700	5.7%	▲ 1,355	▲33.4%
当期純利益	1,930	4.1%	2,000	4.1%	1,700	3.6%	▲ 230	▲11.9%
1株当たり配当	中間	25円	—	30	—	30	10円	+18.0%
	期末	30円	—	35	—	35		

営業利益増減要因分析



前期比 1,192百万円**減益**

単位：百万円



セグメント別 下期の事業見通し



電子・機能 製品	機能 化学品	+ 電子部品製造用化学品や半導体フォトレジスト用添加剤の出荷が堅調に推移
	機能樹脂	- 液晶パネルの生産調整により、光学関連分野向け粘・接着剤の出荷が大幅減少
	電子素材	- 電子デバイス市場の生産調整により、電子部品用回路基板の出荷が減少
フィルム・ シート製品	フィルム	+ 中国市場での高機能フィルムの出荷が増加 - 輸送運賃の高騰などによるコストへのマイナス影響
	ステッカー	+ アジア市場でのコロナ禍からの回復と、半導体不足解消により二輪車向けの出荷が増加
	再帰反射 シート	- 欧州市場での景気悪化により、カーナンバープレート用の出荷が減少
建材関連		+ 手摺や笠木などのアルミ建材の出荷が増加 + 住宅、自動車、工場設備向けプラスチック押出製品の出荷が増加 - アルミ地金価格の高騰によるコストへのマイナス影響
エンジニア リング		+ グループ会社の大型案件が計画されており、売上が増加 + 電力業界向け大型プラントでの売上が増加 - 国内大手製鉄会社の構造改革・再編の実施により同業界向けの売上が減少

セグメント別 業績予想



単位：百万円

		2022年3月期	2023年3月期	前期比	
		実績	現時点業績予想	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	20,473	18,743	▲ 1,730	▲8.4%
	営業利益	2,860	1,714	▲ 1,146	▲40.1%
フィルム・シート製品	売上高	16,173	18,340	2,167	+13.4%
	営業利益	285	614	329	+115.6%
建材関連	売上高	7,507	7,942	435	+5.8%
	営業利益	279	285	6	+2.3%
エンジニアリング	売上高	4,257	5,020	763	+17.9%
	営業利益	82	97	15	+18.6%
連結調整	売上高	▲ 918	▲ 3,045	-	-
	営業利益	▲ 264	▲ 711	-	-
連結合計	売上高	47,003	47,000	▲ 3	▲0.0%
	営業利益	3,192	2,000	▲ 1,192	▲37.3%



中期経営計画「NCIキラリ2025」進捗状況



進捗状況 財務目標

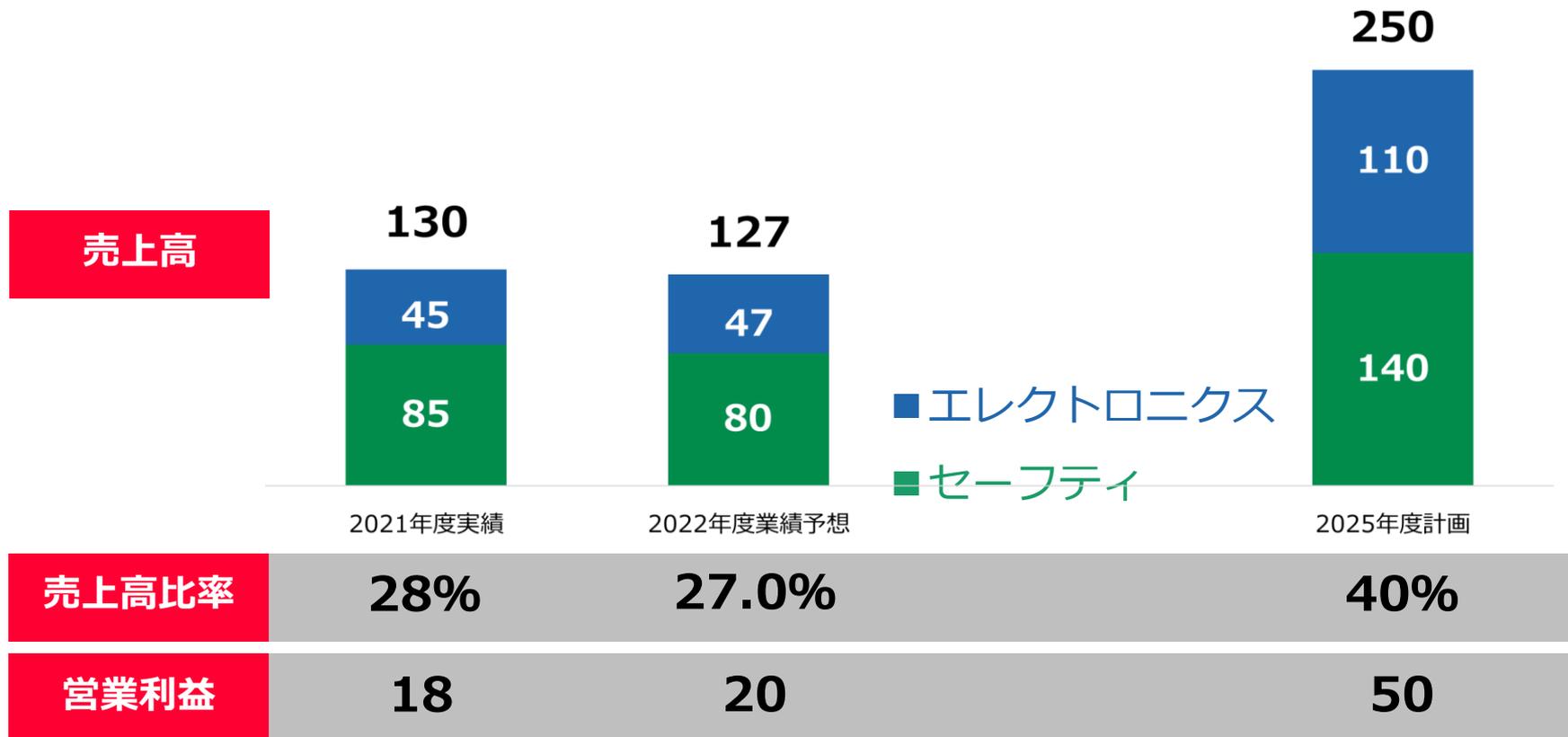
2022年度における売上高／営業利益の業績予想は当初予想より下方修正したものの、重点取組み（P21）を確実に実行していくことで、中期経営計画「NCIキラリ2025」で掲げている2025年度目標達成を目指す

	2021年度実績	2022年度予想	2025年度目標
売上高	470億円	470億円	620億円
営業利益	32億円	20億円	70億円
ROE	6.1%	5.0%	12%以上
D/Eレシオ	0.48倍	0.32倍	0.5倍以下



2022年度の**エレクトロニクス戦略市場**での売上高は47億円、**セーフティ戦略市場**での売上高は80億円、**戦略市場**全体での売上高は127億円、**戦略市場**全体での営業利益は20億円と予想

単位：億円



目標達成に向けた重点取組み（セグメント別）



電子・機能製品

- 注力領域「エレクトロニクス」における半導体戦略市場および電子デバイス戦略市場向け差別化製品の展開による更なる高付加価値化
- 注力領域「セーフティ」におけるライフ戦略市場向け高機能樹脂の展開と収益性の向上
- カーエレクトロニクス向け電子部品用セラミック基板のラインアップ拡充
- 半導体用金型クリーニング材の更なるグローバル展開に向けた営業体制強化

フィルム・シート製品

- 次世代高機能フィルム生産設備での早期量産化と、市場ニーズに対応した製品ラインアップ
- 世界的なEV需要の拡大に対応した環境対応加飾成形品のアジア拠点での生産設備拡充とグローバル市場での拡販
- 未参入地域におけるナンバープレート用反射シートの販売

建材関連

- 高機能高強度手摺の差別化と販売体制強化

エンジニアリング

- 製鉄・電力会社向けカーボンニュートラルトランジション設備導入に向けたリソース集中



空中ディスプレイ用プリズムシート

- 三菱電機エンジニアリング株式会社様が7月20日に発売された空中タッチディスプレイ「AX-101TW」に、当社の空中ディスプレイ用リフレクターが採用されました
- 医療関連機器の開発・製造・販売などを行う株式会社メッツ様のME機器管理システム「Me-Arc-UCD-」に導入された、日立チャネルソリューションズ様の「空中入力装置」を活用したタッチレスソリューションに、当社の空中ディスプレイ用リフレクターが採用されました
- 6月に開催された「デジタルサイネージ ジャパン」、10月に開催された「CEATEC」で、空中ディスプレイ技術を紹介しました（右写真はCEATECでの当社ブース）





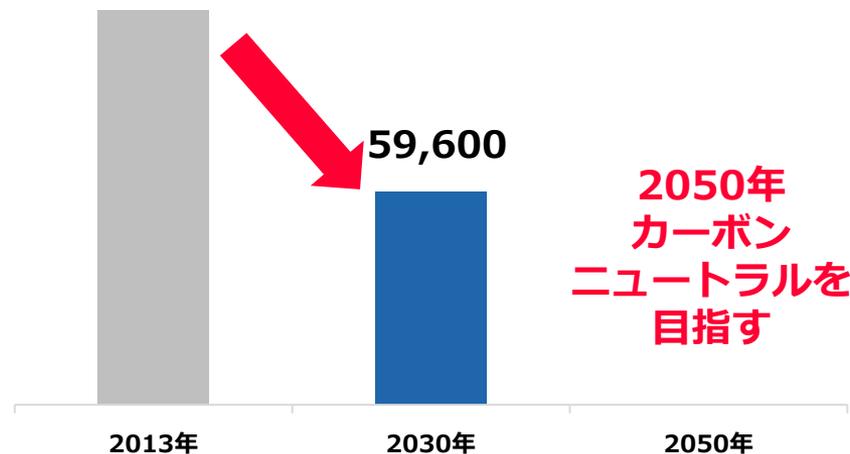
再帰反射シート・食品包装用フィルムの製造を行っている恩希愛（杭州）薄膜有限公司（中国）では、太陽光パネル導入により、年間約2,000トンのCO2削減を計画しています。すでに魚津工場やELECTRO-CERAMICS (THAILAND) CO.,LTD.（タイ）では太陽光発電を実施していますが、今後もグループ全体で再生可能エネルギーの利用を進め、CO2削減目標達成を目指します。

当社グループにおけるCO2削減目標

50,700t CO2 (46%) 削減

(tCO2)

110,300



アナリスト／機関投資家の皆様からのご質問・お問い合わせ先

日本カーバイド工業株式会社

経営企画部 広報・IRグループ

メールにてお問い合わせください
prir@carbide.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えないものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。